

東京交通短期大学 同窓会会報

第45号・令和4年7月発行

発行責任者	武田 浩一
編集長	岡 幸雄
編集	岩井 優太
	小澤 梓



世情を見る・見られるということ

同窓会長

41回生 武田 浩一

新型コロナウイルスが猛威をふるい、鉄道団体のパンデミックからみても、同時に休む職員が出せない交通現場は、未だに感染対策に追われております。

今年の春先にあった地震で鉄道に多大なダメージを受けました。そして、世界では戦争を目の当たりにする年度が始まりました。

昨年は夏季に日本でオリンピックがあったと思ったら、今年は冬のオリンピックが開催されたことなど、遠い昔のように感じられ、混沌の時世を迎えています。

そんなさなかでも、航空機の輸送提供で支援するなど「できることをする」文化が根付いている日本に住む人の心意気を、私は良いと思っています。

ネットニュースやSNSが隆盛をきわめ、動画を各個人が配信できる時代となりました。私の仕事風景も、探すと動画で配信されていたりします。

私が短大で学生をしていた頃の、主だったメディアであるテレビが廃れつつあります。しかし、「テレビなどのメディアは公共の電波から発信され、万人が共有できる、共通の話題を持てる。また情報の真偽や重要性を精査した上で発信する。」という強さを持つ

ていると私は考えます。

この同窓会の会報も、会員からいただいた内容を役員が確認した上で掲載するようにいたしており、こうして会員や学校関係者の皆様にお読みいただいている次第です。

そして、はじめに書き綴ったような今の情勢を、こうして記録として書き示して、あとで振り返れる「会報」は、ログやツイートで過去の発言が埋もれていく現代では、むしろ必要な文化なのかもしれません。過去の会報をさかのぼり、時代や人の進歩の過程を見られるのも面白いと思います。同窓会生同士で内容を共有することもできるメリットもあります。

今後も同窓会は、温故知新の場となるべく邁進してまいります。この先を見据え、同窓会100年を目指してまいります。よろしくお願いいたします。

学長退任のご挨拶

松岡 弘樹



2021年度をもちまして、学長職を退任することになりました。1983年に本学に非常勤教員として着任して以来、本学の多くの学生が交通なかでも鉄道企業への入社を目標としていることに対応し、一貫して、「質実剛健」という建学の精神に則り、教育理念に掲げている、交通産業関連の分野でリーダーシップを発揮しうる専門性を有する人材の育成に力を注いできました。「光陰矢の如し」という言葉がありますが、本当に年月のたつのは早いもので、気がついたら半世紀近くの月日がたっていたというのが正直なところ です。

この間、学生の傾向も様変わりして、着任した当初は、社会人学生が在籍していましたが、年と共に数は減少し、近年はほとんど見られなくなりました。授業開始時間も着任時は17時30分開始だったのが、段階的に早まり、現在は13時10分からの開始となっています。これに伴い、1日2時限から4時限にコマ数も増え、科目自体も毎年のカリキュラム委員会を中心とした見直しの結果、一般教養科目の充実に加えて、本学独自の専門性に特化した科目が配置されています。

ただ、一貫して変わらないのは、他大学の場合は、在学中に将来の進路について模索する学生が多いのに対して、本学の場合は、入学の時点で、ほとんどの学生が前述したように鉄道員になるという明確な目標を持っているという点です。このため、学生のモチベーションは高く、真摯に学業に取り組む学生が多く、その結果として、授業中の私語も少なく、出席率も良好なのが、本学の学生の気質としてあげられる点だと思います。

また、武田会長をはじめとして、歴代の会長様には、様々な形で本学へのご尽力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。同窓会の皆様とも毎年の東交祭への出店、総会や懇親会を通じて懇親を深めさせていただきました。列車の貸切等のイベントに参加させていただいたのも良い思い出です。

着任した当初は、鉄筋コンクリートの3階建ての校舎でしたが、その後、学生ホール・図書館が増設され、2018年には地下1階、地上9階建ての新校舎が竣工しました。旧校舎には、同窓会の皆様が専用利用できるスペースがなく、長い間ご不便をおかけしてきましたが、新校舎には同窓会室を設けさせていただきました。

新型コロナウィルス感染症も収束の兆しが見えつつありますが、完全な収束にはいたっておりません。アフターコロナに至るまでは、ウィズコロナを前提とした厳しい状況が暫く続くものと思われそうですが、このような状況だからこそ、交通に特化し、学費が低廉で、2年間で学士号がとれるという本学のコンテンツは生かされるものだと思います。2022年度からは、豊昭学園の理事長である中野潤先生が本学の学長を兼務することとなりました。中野先生は、併設校である昭和鉄道高等学校の校長の経験もお持ちの方であり、鉄道業界にも精通している方です。今後の先生の手腕に期待したいと思います。

最後になりましたが、同窓会員の皆様におかれましては、在任中の長きにわたるご指導・ご鞭撻に対して心より御礼を申し上げるとともに、今後も本学への変わらぬご助力を賜りますようお願い申し上げます。

学長就任にあたって

学長 中野 潤



木々の緑の深みも増し夏めいて参りましたが、同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、前学長松岡弘樹先生のご退任に伴い、4月より学長を拝命することになりました。私は、令和3年3月に昭和鉄道高校校長職を退任。同年4月から、学校法人豊昭学園の理事長の職に就いております。令和4年度、理事長兼学長という本学園運営の重責を負う事となりましたが、皆様のご協力とご支援を得ながら東京交通短期大学の発展に尽くす所存です。

経団連は2018年に『今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言』で、「大学教育の質の向上」「教育研究力を高めるための大学の連携再編統合の推進」「財務基盤経営改革の推進」の3点について改革を求めました。それに伴い私立大学連盟は、「大学教育としてあるべき姿」について方針を示しています。

大学が育成すべき能力は「主体的で洞察力に富んだ思考力」「能力の柔軟性」「変化に対応する能力」「独自性を表現する能力」と挙げ、私立大学は、「各大学の独自性をより先鋭化させていく必要がある。」としています。私は18歳人口の減少に伴い大学減や規模縮小ではなく、幅広い年齢層が学び続ける社会の実現に向け、私立大学は重要な役割を果たすべきと考えます。そのためには、それぞれの私立大学が持つ特色を、組み

合わせて連携し多様な展開が可能となる仕組みが面白いと思っています。しかし、様々な変革が求められた時には原点の再確認が必要です。東京交通短期大学の開学に至る教育目的(1952年)「優秀なる交通従業員に必要な学術を教授し、その応用能力を涵養させると共に一般教養を高め、健全な人格を有する交通従業員の育成」70年間継続してきた教育は、いかなる改革に着手するときも忘れてはなりません。本学の「時代の要請に応えるカリキュラム」「実働の研究に基づく専門知識」「人間形成を目的とする教育」が正しいことを再認識し、短期大学基準協会から本学が「高等教育機関としての教育を行うに相応しい教育環境」「目指す方向性」が正しい事を証明され社会的評価を得られるように「認証評価:適格」にむけ全学的体制で臨む1年と致します。

最後に、本学は今年創立70周年を迎えますが、次の80周年を見据えた新たな一步を踏み出す所存です。関係各所の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご協力賜りたくお願い申し上げます。

令和3年度事業報告

副学長 高橋 真悟



同窓会の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和3年度の短大の事業報告をいたします。令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年となりましたが、この状況の下で、主に下記の施策を講じることで、本学のさらなる発展に取り組みました。

(1) 新しい授業形態の構築へ向け

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、一部実習科目を除き、原則全科目を対象として、遠隔(オンライン)授業と対面授業を併用したハイブリッド型授業を導入しました。これらの授業の学習効果を高めるために、自宅と教室の双方向通信が可能なシステムを全教室に構築し、教員に対する利用サポート体制も併せて構築しました。

また、令和2年度で培ったノウハウを生かし、全授業でGoogle Classroom や Google Meetを活用するなど、遠隔授業の充実を図りました。その結果、対面授業ではできなかったチャットによる質疑応答などが可能となり、人前で発言するのが苦手の学生も能動的に授業に参加する様子が見られました。

(2) カリキュラムの中期計画の実現

令和2年度から着手しているカリキュラムの中期計画を実施しました。具体的には、「①工学系科目の充実」として、1年次の「鉄道工学」の講師を鉄道実務経験者に担当してもらい、2年次の「鉄道プログラミング」の人数を減らして教育効果の充実を図りました。また、交通見学会で「小田急ロマンスカーの貸切と車両基地見学」、ゼミ旅行で「関東鉄道の車両基地見学」を実施して、人材不足の保線・メンテナンス部門への関心を高めるイベントを実施しました。「②コミュニケーション能力の向上」については、履歴書にどのような内容を書くかについて、1年次必修の「基礎ゼミ」で教わった内容を日本語検定対策の授業である「文章表現技術」で実際に書いてみるという連携を初めて行いました。「③本学らしい英語教育」は、能力別2クラスの担当者がバラバラだったので、上位クラス担当者を1名、下位クラス担当者を1名に絞り、両担当者の連携を深めるなどして、内容の充実を図りました。

以上の施策を実施することによって、中期計画はほぼ完了し、鉄道業界から要望されている保守・点検部門の人材を輩出していくと同時に、専門学校との差別化を図りました。

(3) 丁寧な個別就職支援の実施

従来、就職支援については、キャリア支援担当教員を中心に、キャリア関係科目の充実や基礎ゼミでのエントリーシート作成指導などを実施してきました。しかし、キャリア支援室やゼミ担当教員との個別指導は任意であったため、これらを利用しない学生に対するフォローが十分できていませんでした。令和3年度は就職状況が厳しくなることも踏まえて、雇用環境が悪化しても、就職状況が悪化しないように、令和2年度末から基礎ゼミ担当教員、キャリア支援担当教員、専門ゼミ担当教員による、3ステップの面談・エントリーシート添削を対象学生に対して実施しました。

(4) 校舎内の安全確保

校舎内での新型コロナウイルスの感染を防止する策として、令和3年度はエントランスに自動検温器と自動噴霧型の消毒装置を設置し、登校する学生にはGoogle Forms での検温報告を義務付けました。一方、不審者対策として、セコムカードを全学生に配布し、エントランスの自動ドアをカードで開錠するようにしました。また、これらと同時に防災計画について、実際に大地震や火災が起きたときの対処法を常勤教職員を中心に検討し、より現実的な方法への見直しを行いました。

(5) Web 体験入学会等による Web サイトの充実

令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から初めてWeb体験入学会を実施しました。これによって、地方在住の学生が気軽に本学のイベントに参加できるメリットがあることから、令和3年度は授業と同様、対面による体験入学会と Web 体験入学会を併用しました。また、対面とオンラインを同時に行うハイブリッド型の体験入学会も実施し、両方のニーズに対応しました。さらに、説明会や模擬講義を録画して一定期間Web上で公開するなどして、Webサイトの利用促進を図りました。

(6) Web 入試の実施

令和2年度に試験的に導入したWeb入試を実施しました。これにより、新型コロナウイルス感染症が落ち着いていない状況でも、受験生が対面型入試とWeb入試を選べるようにし、安心して受験してもらえる環境を整備することができました。本学は全国から受験者が来るので、入試委員会が検討した結果、受験者確保と受験費用の軽減の観点から、令和4年度もWeb入試を実施することにしました。

(7) 女子入学者確保のための施策

新型コロナウイルス感染症の影響で、従来実施していた女子学生向けイベントを開催できませんでした。ガイドブックやホームページなどで女子学生を積極的に掲載するようになってきましたが、結果が出ていません。令和4年度に向けて、これまで実施していない方法も含めて、入試委員会や広報委員会で検討していきます。

(8) 安定的経営のための入学者の確保

Web体験入学会やWeb入試を実施しましたが、令和3年度は受験者が96名、入学者が78名と減少しました。鉄道会社の業績や雇用状況の悪化も影響していますが、この影響が2年連続して起きないよう、高校への広報活動はもちろん、交通IT系への就職や編入学への道など、新たな魅力を発信していく予定です。

新型コロナウイルス感染症の収束の兆しがなかなか見えない感じがしますが、事態の終息と皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

令和3年度 東京交通短期大学学事報告

学科長 小宮 全



東京交通短期大学学科長の小宮全です。私から令和3年度の学事報告をさせていただきます。

1. 新・退任教職員について

【退任教員について】

令和3年度をもって、以下の先生方が退任されました。

(専任教員)

松岡弘樹学長・教授

藤井大輔准教授

眞中今日子専任講師

(非常勤教員)

國部友弘講師

山中一輝講師

佐久間貴士講師

田村和大講師

ご退任された先生方の、短大への尽力に感謝すると共に、今後のご活躍をお祈りいたします。

【新任教員について】

令和4年度より、以下の先生方が新たに赴任されることになりました。

(専任教員)

中野潤学長・教授

大野絢也専任講師

松山周一専任講師

(非常勤教員)

青木言葉講師

塚田知香講師

奥野友介講師

西上いつき講師

各先生方の専門分野で培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

2. 学校行事について

令和3年度の学校行事に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により保護者の方の参加は見合わせていただきましたが、対面にて入学式を実施することができました。一方、例年5月に実施している学外レクリエーションは12月に延期し、学生の興味などを考慮し「鉄道博物館」の貸し切りを実施しました。授業は昨年同様、前期は遠隔(オンライン)授業を原則とし、必修科目等の一部科目は対面で実施いたしました。後期は、原則として全科目をハイブリッド型授業とし、学生のみなさんが対面・オンラインを選ぶことができるようにしました。前後期共に公平性の観点から、本試験はオンラインで実施しました。また、オープンキャンパス・体験入学会や東交祭は感染症対策を講じたうえで、予約制で開催いたしました。その他、専門ゼミ発表会(12月)はハイブリッド型で実施し、3月18日(木)に池袋メトロポリタンにて卒業式を挙行了いたしました。保護者の方にはホテル内の別室で参列いただき卒業式のライブ配信をご覧いただきました。なお、卒業式には、同窓会会長の武田浩一先生にご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。同窓会役員の方の学校行事へのご協力に感謝申し上げます。

3. 時間割について

令和4年度の時間割と特別教養講座カリキュラムが決まりました。特別教養講座につきましては、引き続き、元同窓会会長の川島一郎先生、前同窓会会長の半沢貞夫先生、同窓会会長の武田浩一先生の3人の先生に加え、あらたに同窓会役員の小澤梓先生に講義を依頼しております。

※編集部より: 特別教養講座カリキュラムおよび時間割は短大ホームページ「在学生の方」→「時間割」「特別教養講座」のページをご参照ください。

令和3年度就職状況及び令和4年度就職支援

キャリア支援室 栗原 圭二



同窓会の皆さま、本学キャリア支援室でお世話になっております栗原と申します。同窓会の皆さまには、就職支援の一環としての出張講義や後輩へのアドバイス等におきまして、大変お世話になっております。

令和3年度就職状況についてですが、卒業生98名に対して就職希望者78名であり、72名が就職先を確定し卒業いたしました。進学希望は13名であり四年制大学・専門学校等へ編入・入学しております。

令和3年度は、JR4社に10名、JRグループに7名、首都圏の私鉄に5名、東京都交通局及び横浜市交通局にそれぞれ1名、東京都交通局協力会に10名など鉄道企業就職が40名となりました。肥薩おれんじ鉄道や北越急行等の地方の鉄道会社にも入社しております。今年度以降も鉄道会社に入りたい学生の思いを大事にしていきたいと思えます。

令和3年度は、昨年に引き続き、就職活動スタートについては3月、選考開始は6月となっております。しかしながら一昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で、鉄道会社の多くが運輸職において採用人数を大幅に減らしており、運輸職を採用しない会社も目立ちました。そのような環境の中、一昨年度からの新しい傾向として、保線や車両等の鉄道技術職を希望する学生も増えてきております。令和4年4月には東武エンジニアリング・東鉄工業・ゆりかもめ（技術職）に入社しました。

今年度は昨年度に引き続きキャリア系授業をさらに活用させていただきます。一昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で、企業への応募方法や選考方法に変化が生じてきました。インターネットを通しての応募（エントリー）による紙の履歴書・エントリーシートの廃止やWeb面接の実施等です。そのような採用方法の変化にも対応できる学生を育成していきたいと考えております。また、昨年はオンラインでのインターンシップを横浜市交通局・東急トランセに実施していただきました。

同窓会の皆様とは、就職支援の観点からもぜひ後輩に対していろいろな経験談をお話いただけると幸いに思っています。今年は9月後半までに大手企業の採用が決まっていくと思いますので、東交祭などにお越しの際はぜひキャリア支援室にお立ち寄り、進路についての疑問質問をお気軽にしてください。また、ぜひ求人があればお声がけいただければ幸いです。

最後に、令和3年度の就職・進学状況について簡単に報告させていただきます。令和3年3月卒業生98名中、交通関連企業へ47名（昨年同時期55名）、一般企業25名（昨年同時期15名）、進学13名（昨年同時期4名）という状況でした。（4月30日現在）

鉄道関連の就職先は次の通りです。

【鉄道関連企業別内定者数】

東海旅客鉄道 1名（昨年1名）
北海道旅客鉄道 5名（昨年3名）
四国旅客鉄道 1名（昨年無）
日本貨物鉄道 3名（昨年4名）
新幹線メンテナンス東海 1名（昨年1名）
JR東日本ステーションサービス 1名（昨年1名）
JR千葉鉄道サービス 1名（昨年1名）
JR高崎鉄道サービス 2名（昨年無）
北海道ジェイ・アール・サービスネット 1名（昨年無）
ジェイアール貨物・北関東ロジスティックス 1名（昨年無）
東京地下鉄 1名（昨年1名）
東武ステーションサービス 1名（昨年4名）
東武エンジニアリング 1名（昨年2名）
京浜急行電鉄 1名（昨年5名）
京成電鉄 1名（昨年1名）
ゆりかもめ 1名（昨年無）
東鉄工業 1名（昨年無）
東京都交通局 1名（昨年無）
横浜市交通局 1名（昨年1名）
阪急電鉄 1名（昨年無）
大阪市高速電気軌道 1名（昨年無）
北越急行 1名（昨年無）
肥薩おれんじ鉄道 1名（昨年無）
東京都営交通協力会 10名（昨年8名）

令和4年度入試報告

入試委員長 濱 雄亮



令和4年度入学者を選抜した入試(令和3年度実施)は、志願者のべ96名、合格者80名、入学者78名でした。入学者は定員の80名を2名下回り、定員充足率は96%となりました。志願者数は昨年度と比べると78名の大幅減少となりました。以下の2つが大きな要因であると考えております。

第一に、コロナ禍に際して鉄道会社の経営状況の悪化やそれに伴う求人への減少が起き、かつそれがマスコミで大きく報じられたことです。そのため本学のことを知っている高校生や保護者も、あえてこの状況で鉄道・交通に特化した短期大学に進むことに及び腰になったことと推測しております。

第二に、本学の知名度の相対的な低下です。本学のホームページの閲覧者数が、令和2年度から令和3年度にかけて、30%近く減少しました。入学検討者がよく見るはずの、就職実績や入試や学費のページが、特に大きく落ち込んでいます。ここからは、本学の姿を知ったうえであえて選ばなかった受験生がいたことに加えて、そもそも本学の中身が知られていないために志願者が減ったという推察が成り立ちます。そうであれば、本学の存在や魅力を知ってもらうことが第一に必要とされます。

そこで次に、この状況の打開のために今年度を実施している施策について報告いたします。

第一に、本学の魅力をより実感してもらえるようにするための、イベントの強化です。各種イベントは、十分な感染予防対策をとったうえで原則的に対面実施としております。また、体験入学会の際の模擬授業の講演者として、同窓会のみならずさまに登壇していただく回数を増やしました。お力をお貸しくださいまして、誠にありがとうございます。加えて、近年は年に2回のオープンキャンパスを実施していましたが、オープンキャンパスを3回、ミニオープンキャンパスを2回というように、倍増させました。実施時期も、高校3年生が進路を選択する時期を考慮して前倒しいたしました。

第二に、高校訪問の再開・強化です。これは令和3年12月より実施しております。高校も大学・短期大学からの情報に飢餓感があつたのか、コロナ前の令和元年度よりも高校の先生が会って下さる率が向上しました。この「飢餓感」が関係しているのか、令和4年に入ってから、高校からの出張説明会の依頼が今までになく増えております。そうした依頼には極力応じております。

第三に、引き続きコロナの状況は予断を許しませんので、イベントを予約制とすることと消毒・検温等を徹底することは継続しております。また、受験生向けのオンライン相談や必要に応じて在学生向けのオンライン授業も継続しております。コロナを契機に、新たな発信方法を確立できました。

現在、日本の短期大学志願者数は減少し続けています。日本私立学校振興・共済事業団によると、令和3年度に定員割れをした短期大学は239校、短期大学全体の80%を超えています。こうした短期大学全体の逆境の中、本学は定員充足率96%でした。定員割れしたとはいえ、短期大学全体のなかでは、優秀な群に属します。本学の強みである、鉄道・交通を学んで学位を取得できる唯一の高等教育機関であること、コロナ禍でも高い就職率を維持していること、目的意識の高い学生が多いこと、編入学指導が充実していること、対面・オンライン双方に対応していることは変わっておらず、むしろより一層の充実に向かっております。上述の諸施策や強みを糧にしてこの状況を打開してまいりますので、今後とも同窓会の皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

— 会 員 解 放 区 —

「東交大卒業生の活躍を見守って」

13回生 川島 一郎



昭和41年(1966)春、日本国有鉄道に勤めながら東京交通短期大学を13回生で卒業し、既に56年が過ぎ、78歳ですがお陰様で元気です。

国鉄では、駅や操車場や車掌、長く管理部門にも勤務し、国鉄分割民営化でJR東日本に採用され、駅長や車掌区長も勤めた。55歳でJR退職後JR東日本グループ会社9年半、東日本鉄道OB会東京地方本部の業務11年も既に卒業した。

現在は、奉仕活動として東大同窓会顧問として同窓会や卒業生を応援している。学校法人豊昭学園の常任評議員、学園校友会活動も役員としてもお手伝いしている。また、東京に生まれ育って地元にも長いこともあり、地元の小学校の同窓会でも相談役として活動している。地元の鉄道OB会東京城南支部で副支部長、JR東日本のシニアサポーターも拝命し、駅でお困りの方のサポートや自死防止で巡回をしている。思いもよらず令和元年暮れに海外で発生した「新型コロナウイルス」が、令和2年早々に日本でも確認され、対処方法が確立しないまま3月には東京都が全国1位感染となり、有名芸能人の死亡、総合病院でのクラスターも発生し、4月には「緊急事態宣言」が発せられた。私は独り住まいながら常時マスク着用、体温・血圧計測し、不要な外出自粛、会食や飲み会は極端に減った。この間、東京交通短期大学、豊島学院高校、昭和鉄道高校も感染防止対策、オンライン授業や分散登校など厳しい対応に追われ、入学式、卒業式の縮小実施、修学旅行、研修旅行、体育祭等々も延期や中止・分散開催など対応に追われた。学校と一体の同窓会活動も中止や延期、オンライン役員会などが続いた。令和3年2月1日には東京都感染者累計10万人を超えた。この頃新型コロナワクチン接種が始まり、私も高齢者で2回のワクチン接種も受け、特に副作用はなかった。ワクチン接種が進んだこともあり、8月をピークに感染者数は減少し10月25日で蔓延防止措置が解除されたが、この間、多くの方が亡くなった。しかし、僅か1ヶ月後の11月に南アフリカで強力な感染力を持つ「変異オミクロン株」が発見され、令和3年11月29日に日本でも発見され、今年1月21日に「蔓延防止等重点措置」が発せられた。

再度の自粛生活など各種対応に追われる中で、2月16日には東京都で12万4千人をピークに下降に向かった。3回目のワクチン接種が早められ、私も2月上旬に接種した。3月になり減少傾向が顕著になり、蔓延防止等重点措置は3月21日に解除されたが、東京都は自主的な警戒の継続を呼びかけている。感染減少は牛歩状態。5月GW後で全国累計822万人超が感染し、亡くなられた方の累計は3万人になっている。

私は、雪の飯山線独り列車旅、仙山線・山形新幹線の列車旅も大雪続きで中止、何れも無手数料キャンセルであった。独りドライブも天候に阻まれ、長い自粛生活を続けていたが、桜の時期になり、水郡線、富士宮市に出掛け、4月中旬さくら巡り&アスパラ狩りで喜多方市・磐越西線・只見線へ行ってきた。GW前後では残雪のメルヘン街道と 小海線、加須市の藤、新潟のチューリップ畑などを日帰りで見て撮ってきた。昨年夏から自粛生活の日々をテレビ観戦ばかりではいけないと思い、パソコンで「自分史」を作っており、経歴、思い出、家族、奉仕活動等に加え、趣味の写真も入れ既に50数ページになった。健やかでいる限り常に現在状況で整えておきたい。

私は年賀状で多くの方々との繋がりを大切にしている。親類や友人、先輩・後輩など多方面の方々ですが、東京交通短期大学卒業生では、日本各地や台湾までの124名と賀状交換していたが、ご逝去や高齢で中止したり、また途絶えたりで現在は52名と相互に継続中です。この皆さんの状況を見ると、駅勤務、車掌、運転士、SL機関士、輸送 指令、助役、管理業務などで幅広く活躍し、JR各社や、関東、名古屋地域、九州など各地の私鉄勤務、バス関係、自衛隊、郵便業務、起業独立した者、ほか一般業務、主婦で頑張っているなど様々な方がいる。先日、私がJR東日本シニアサポーターとして駅での声かけ巡回中に乗車した京浜東北線の車掌から声を掛けられびっくりしたが、平成8年卒業生の岡幸雄さんであった。卒業生がそれぞれの立場で活躍され、さらに活躍、昇進されることを願って見守ります。

(元東日本旅客鉄道勤務)

鉄道150年、交通短大70年を祝して

15回生 半沢 貞夫



今年は、わが国に鉄道が開業して150年、そして東京交通短期大学が創立して70年の節目の年、鉄道の教育を国鉄100年史、中教80年史などから回顧し、祝いたいと思います。

鉄道人の教育は、初代鉄道兼電信建築師長として招聘された、お雇い外国人エドモンド・モレルの、「日本は将来外国人の手を借りることなく事を進めるべき、そのためには教導局を置き、優秀な少年を選抜のうえ教育習熟させ技術全般に要する技術者を育てるべし」と伊藤博文大蔵少輔に宛てた建白書によって、鉄道開業より早い明治4年に工学寮が創立され、初めて鉄道等の技術者の養成が行われます。

明治5年に開業したわが国初の鉄道には電気信号が採用されており、その従事者教育として電信修技生の養成が実施され職能教育が始まります。明治10年には、鉄道の父と称される井上勝鉄道局長により、工技養成所が大阪停車場の2階に設置され、国沢能長、長谷川謹介など優秀な人材を輩出、彼らの下日本人だけで逢坂山隧道を掘削し、京都～大津間を完成させます。

その後、明治24年に鉄道電信技術伝習生養成所、31年には事務系統の要請から鉄道運輸事務伝習所が設けられ、鉄道の教育制度が確立します。

この頃、一般学校でも実業教育制度が整備され、36年に岩倉鉄道学校(東京)、37年には東亜鉄道学校(熊本)、大正5年に博約鉄道学校(鹿児島)など各地に鉄道学校が誕生、授業も一般教科とともに鉄道関係に及び、大勢の卒業者が鉄道の需要に応じました。

明治42年、後藤新平は鉄道院総裁に就くと、鉄道国有法制定により買収された私鉄統合後の従事員の融合と資質向上から、中央・地方に教習所を開設、中央教習所の開所式で「鉄道事業の進展発達は一にも二にも三にも人なり」と演説します。

大正10年、東京鉄道局教習所に入所した方の思い出、『…夜の自習時間に給仕が同室のT君に「亀川先生がお呼びです」と告げに来たが、T君は「亀川とは誰だ、用事があるならこっちへ来い」と言う。給仕は「亀川先生ですよ」と重ねて言うものの、T君も前言を繰り返す。翌日T君は亀川先生に呼び出され、「昨夜の言動は生徒としてあるまじきもの教育の価値なし、合議の結果直ちに退所を命ず」との話に教室内は大騒ぎとなり、助命嘆願の結果、T君は卒業までは便所掃

除、クラスも修学旅行以外の見学会はすべて却下…』と振り返っています。寮監だった亀川先生こそ元交通短大校長・学園理事長である亀川徳一先生であることは言うまでもありません。

また、私も本校で鉄道会計学をご教示頂いた藤川福衛先生(当時国鉄総裁室)は、明治43年に東部地方教習所、44年に中央教習所普通部、そして3回目は大正11年に中央教習所の高等部と3回教習所で学んだと書き残しています。

昭和初期、一般学校卒業者が増加し、鉄道も容易に新規採用が可能となり、鉄道教習所の普通部が廃止された昭和3年昭和鉄道学校が創立します。しかし、日支事変、太平洋戦争が勃発すると職員は不足し、再び教習所の整備により大量養成が行われます。

昭和24年、日本国有鉄道の発足に伴い、本社直轄の教習所は各鉄道局の附属機関となり、25年には教育機会均等から通信教育制度が開始するなど、職員の向学心が高まる中、27年により高度な一般科目と専門科目を昼働きながら夜学ぶ学校として、東京交通短期大学が国鉄総裁、交通営団総裁、東武鉄道社長等を顧問に誕生します。

鉄道大学は、鉄道75周年記念として十河国鉄総裁によって提唱され、開校寸前にCTSにより沙汰やみとなりますが、構想は中央鉄道教習所、そして昭和36年に中央鉄道学園の大学課程に発展、62年の国鉄民営分割まで高度な教育が施され、JR後も各社の研修センターに引き継がれます。

交通短大は、今後も社会のニーズに応える「新しい交通・鉄道」の在り方を追求し、教育・研究する唯一の教育機関として大きな期待がかかります。

「人を作る国は興る、教育をおろそかにする国は亡びる。鉄道も同じである。」これは会社の大先輩、青木槐三氏の言葉である。

(元交通新聞社勤務)

『駅長』

第58回生 松本 真之介



この令和の時代に、国鉄職員が働くJRの駅をご存知ですか？勿論、国鉄入社者のベテラン社員のことではありません。民営化を迎えることなく、働き続けている彼らを紹介しましょう。

2017年7月、日暮里駅で勤務していた私に、上司から鶯谷駅へ2週間だけ応援に行ってくれないかと持ち掛けられた。仕事内容はホーム事務室に溜まった産業廃棄物の片付けで、「掃除だけで良いならラッキー」と軽い気持ちで快諾してしまった。夏休みの子供が電車の中で騒ぐ、8月のお盆前の時期に私と後輩の2人で鶯谷駅へと向かった。そこでとんでもない空間に出会ってしまうのだ。鶯谷駅に到着し、内勤室から案内の社員に連れられ、バケツと雑巾を持ってホーム事務室の引戸を開けた。素晴らしい、ここは国鉄だ。掲示板に貼り出された『東京北局ニュース 東北新幹線大宮～上野間開業』、黒板に書かれた日付は『1987年4月1日』、今にも使えそうなカラフルな『気象告知板』。机に置かれている京浜東北線のダイヤグラムに快速の文字は無い。ここだけ時間が30年間停まっているのだ。黒板の日付から想像するに、国鉄民営化を迎えた1987年4月1日の朝、合理化でホーム事務室の役目が終わったのであろう。まるで博物館の再現コーナーに居るような環境で掃除が始まった。ホーム事務室に電気は通っておらず、冷房無し、照明無しの状況下での作業となり過酷だった。しかし、快速電車が通過する時だけ涼しい風がサーッとホーム事務室を流れる。このホーム事務室が開いていることが珍しいのか、通過の状態監視を行う車掌が二度見していく。事務室内の奥の方にあった古びた木製の引出しを開けると、昭和40年代の勤務表や事故報告書が出てきた。今では考えられない程の人数が勤務していた。平成生まれの私が知らない、1964年東京オリンピックの頃の鉄道風景が広がっていた。線路内に風呂敷を落とした、痴漢が線路に立ち入った、大雪で視界不良。運転見合わせとなる事情としては現代と大差ない。でもここには多くの鉄道マンが勤務し、誇りを持って鉄路を守っていた。そう想うと自然と作業が捗った。

2週間にも及ぶ作業が終了した。現役かとも思える程綺麗な状態に復帰した。鶯谷駅の社員と「ここで作業できたいいね」と話して状態の良いデスクと椅子を残した。少し名残惜しかったが、この“鉄道博物館”にさよならを告げ、ガラガラガラ…と引戸を閉めた。

作業を終えた日の夜に夢を見た。私はあのホーム事務室にいる。でも、明らかに綺麗なのだ。窓の外を見ると古い特急色の電車が走っている。僕達が置いたあのデスクで仕事をしている職員が見えた。すると引戸が開いて1人の男性が入ってきた。仕事をしていた職員はその男性に対し「駅長、松本君達が掃除してくれたお陰で仕事がしやすいです。」と話した。彼は駅長らしい。駅長は私に「ありがとう、助かったよ。また来てくれ。待ってるからな。」と話し、夢が覚めた。翌日、職場にて鶯谷駅で一緒に作業をした後輩に、少しオカルトじみた話ではあるが夢の話をした。すると彼から、「松本さん、変な夢を見たんです。」と。話をよく聞くと、鶯谷駅の駅長室で見知らぬ男性社員からお茶を貰ったと言うのだ。不思議と怖さではなく、嬉しさが込み上げた。僕達の2週間の仕事が認められたのだ。しかし、私の夢の話聞いた後輩は気味悪がっていたのが少し面白かった。その後、縁があり半年程鶯谷駅に勤務して転勤した。そこで鶯谷駅との関係は終わりと思っていた。今では中央緩行線の駅に勤務している。

2022年6月、鶯谷駅に勤務している親しい社員から「松本さんが以前描いたキャラクターを鶯谷駅110周年記念で公式キャラクターにしたい」とオファーがあった。当時、落書き的に描いて社内のお知らせ等に使っていたキャラクターで日の目を見るのは非常に嬉しかった。1ヶ月掛けて修正等を行い、キャラクターグッズの商品化まで辿り着いた。

鶯谷駅開業110周年記念イベントの当日、担当者から呼ばれて鶯谷駅へ降り立った。土曜日の午前10時、ホームに人は少ない。改札に向かう人達からは外れ、ホーム事務室の前で立ち止まった。僕は心の中で「駅長、お疲れ様です」と言いきり。また僕は駅長に呼ばれたのだ。

(JR東日本ステーションサービス勤務)

私のPC変遷 41回生 武田浩一



私がこうして自宅のPCでこの投稿を入力したり、職場で掲示物をパワーポで作成したりしながら、「どうしていつの間にこんなスキルが身についていたのだろうか？」とふと思い、学生時代からの経験を振り返ってみた。

高校時代、新聞部に遊びに行っていて、「一太郎」なるワープロ機・・・ワープロ機能とプリンタ機能が付いたマシンが新聞作成用に支給されていて、私も使わせてもらい、人差し指でキータッチしながら記事を作らせてもらったりした。

短大に入学、「コンピュータ1」を受講。授業では当時のPC9801で・・・ベーシックプログラムを弄っていたのを臍げな記憶から手繰り寄せた。それが1992年の話で画期的なOSとなるウィンドウズ95が出たのはそのあとだった。

鉄道会社に入社して、駅係員時代、納金を入力すると本社にデータを送信できるパソコンが導入された。ただ、起動に30分かかっていただけなのは愛らしかった。そんな20世紀。

乗務員になり運転士となった当初、乗務職場にもやっとこさPCが導入された。が、触る人があまりおらず、私はキレイに文章を書いた掲示物が作れるぞ！と万歩計使用推進の掲示物用に好んで使ったが、まあよくフリーズしていて、乗務開始時間との兼ね合いを気にしながら使っていた。その時のソフトは慣れ親しんだ「一太郎」だった。

2000年代、タイピングソフトの流行も相まって自宅のPCでタイピングの腕を高めていった。技術が高まったと思われた一番の要因は、短大の同級生に送受信しあっていた珍奇な内容のEメールのやり取りだったと今でも思う。

そして、職場クラブの会計報告にエクセルを使い、画像を載せたワード作成の掲示物、さてまたは短大の特別教養講座でパワーポイント、と是が非でもPCスキルが向上していると感じている。「是が非でも」も検索して意味を確認した。

近年、業務でiPadを貸与されているが、その使いこなし方を若手に教わっている次第である。文字入力はやはり慣れ親しんだキーボードがやり易い。

(東急電鉄勤務)

* とうこう写真館 *

13回生 川島 一郎
「磐越西線 SLばんえつ物語
(一ノ戸橋梁)」



56回生 三島 能之
「劔岳と万葉線」



58回生 松本 真之介
「郵便局長室」



<写真募集>

「とうこう写真館」を飾る素敵な写真を募集します！

- ①テーマ:「自由」※鉄道写真でなくてもOKです。
- ②寄稿の方法:会報44号をご覧ください。
- ③ガイドライン
 - ・画像のファイル名のどこかに投稿者の名前を入れて下さい。(例:20210101山田太郎.jpg)
 - ・被写体の顔が認識できる写真は投稿者本人の責任において掲載の許可を取ってください。
 - ・会報44号に記載の文章・写真共通ガイドラインも必ずお読みください。
- ④締切 2023年4月末日

短大旧6号館の思い出

取り壊された旧6号館の思い出を2017年頃の写真とともに振り返ります。

外観



ゼミなどに使
われた
小教室



←3階
↓



←田中元学長
の書が飾られ
た踊り場



憩いの場・
学生ホール



2階→
↓



欠かさずチェッ
クしていた就職
相談室前の掲
示板



目を引くシミュ
レーター棟



(画像提供: 58回生 松本 真之介)

会 計 報 告 書

(2021年度)

2022年4月1日

東京交通短期大学同窓会

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
項 目	区分	金 額	摘 要	項 目	区分	金 額	摘 要
繰越金	A	348,252 円		集会費	イ	4,363 円	会計作業慰労会
会費	B	415,000 円	5,000円×83名	事務費	ロ	46,380 円	会報印刷代
臨時会費	C	0 円		通信費	ハ	277,261 円	会報発送代、資料送付等
寄付金	D	4,741 円	非役員0B	渉外費	ニ	218,945 円	卒業生記念品
雑収入	E	4 円	利息	会議費	ホ	27,417 円	役員会会場代、交通費等
				雑費	ヘ	14,525 円	同窓会室備品、東交祭展示品作成
				繰越金	ト	179,106 円	
収入計		767,997 円		支出計		767,997 円	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

2022年4月1日

会計監査

堀 丈 夫



会計監査

八 木 橋 孝 尚



個人情報の取り扱いについて(概要)

2011年3月8日

東京交通短期大学同窓会

1. 法令その他規範の遵守、個人情報の保護及び取り扱い
 2. 適正な手段による個人情報の取得、利用又は提供
 3. 個人情報の訂正・削除・開示等の対応
 4. 個人情報の更新
 5. 個人情報のセキュリティ
 6. 個人情報の今後の取り組みについて
- ※詳しくは、会報42号の最終頁をご覧ください。

同窓会からのお知らせ

【短大同窓会 役員募集について】

今回会報を作成するにあたり、マンパワーの不足が課題となりました。また、貸切列車企画や東交祭のお手伝いもぜひ協力をいただきたいと思っております。

そこで、同窓会活動の主幹となる役員をひろく募集します。遠方などにいらしても、出来る場合がございます。

編集・催事・意見要望の対応などを学ぶ機会が、数多くあります。

まずは定例会に参加していただければと思います。

会長 武田浩一

【公式LINEアカウント開設】

同窓会ではこの度「公式ラインアカウント」を作成いたしました。

東交祭や貸切列車、定期的に行う会合「定例会」のお知らせを配信しております。

「@733mbeib」で検索いただくか、右のQRコードを読み込んで登録してください。



【登録住所の変更・問合せについて】

住所、氏名の変更等についての連絡は、同窓会のメールアドレス

「tokuouob@gmail.com」へお知らせ下さい。変更等の対応を行います。

※学校側の負担軽減の為、連絡は **原則として** メールをご利用ください。

メールの利用が困難な場合は、巻末の住所宛にはがき又は封書にてご連絡ください。

※なお会員本人死亡の通知は電話でも受け付けます。ご遺族がご連絡下さい。(短大事務局:03-3971-4704)

【重要:会報の発行について】

前年号より、会報は短大ホームページ上にて **オンライン発行** に切り替えられました。

公開開始日については、メール、公式ラインまたは短大HPにてお伝えします。

E-mail: tokuouob@gmail.com 公式Line: @733mbeib 短大HP: <https://toko.hosho.ac.jp/>

次号は短大70周年記念号です。2023年夏頃の発行を予定しております。

東京交通短期大学同窓会会則

第一章 名称

第一条 本会は東京交通短期大学同窓会と称する。

第二章 目的

第二条 本会は会員相互の親睦と福祉を図り母校発展を助成することを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するための事業を行う。

一、総会の開催

二、会報及び会員の掌握

三、本会は目的達成のための諸事業

第三章 事務局

第四条 本会は事務局を、〒170-0011 東京都豊島区池袋本町 2-5-15 東京交通短期大学内に置く

第四章 会員

第五条 本会の会員は本大学卒業生とする。

第五章 役員等

第六条 本会は、下記の役員を置き、役員会を構成する。
なお会長、副会長は役員とする。

一、会長

二、副会長

三、役員

第七条 本役員の選出は下記の方法による。

1、会長、副会長は総会に於いて会員中から選挙する。

2、役員は若干名選出する。

3、総務、書記、会計は副会長より各一名以上、役員の中より各一名以上選出する。但し別に、会計を補佐する学園側担当者(東京交通短期大学事務局員)を会計補佐者として認める。

4、役員に欠員が生じた場合は、前項の規定に拘わらず会長が役員会の承認を経て、会員の中から選任することができる。

第八条 役員の任期は二年とし再任を妨げない。

尚、補欠選挙の役員は前任者残留期間とする。

第九条 役員の改選は偶数年次(西暦)に会長を奇数年次(西暦)に副会長、書記、会計、総務を選出するものとする。

第十条 本会役員の任務は下記の通りとする。

1、会長は本会を代表し会務を総理する。

2、副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。

3、書記は本会の議事、記録を掌る。

4、会計は本会の会計を掌る。

5、総務は本会の庶務を掌る。

6、役員は役員会、定例会を組織し、会員の掌握、会報の発行、諸事業の開催、事務室の管理等会務の執行を掌る。

第十一条 本会は必要に応じて顧問を置くことができる。

顧問については、役員会の承認を

得、会長より委嘱するものとする。

第六章 会議

第十二条 本会の会議は、総会、役員会、定例会の三種とする。

1、総会及び役員会は、会長がこれを招集してその議長となる。2、総会は毎年一回(東交祭開催時)とする。役員会は年二回以上開催するものとする。

3、会長は必要を認めた時、又は役員の三分の一以上の請求により臨時総会及び役員会を招集することができる。

4、定例会は、役員、顧問、会員また同窓会長が特に認めたもので構成し、必要に応じて開催する。

第十三条 総会は下記の事項を定める。

一、収支決算の承認

二、予算の決議

三、本会の目的

四、会則の変更

五、役員の改選

第十四条 会議の議事は原則として出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第七章 資産及び会計

第十五条 本会の会費は会費寄付に関わる金品その他の収入による。

第十六条 本会の経費については備付帳簿によりその出納を明らかにし、会員の要求ある場合はこれを提示するものとする。

第十七条 本会の会計は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

第十八条 本会の入会金は五千円とし終身会費とする。但し、会の性質により特別会費を徴収することがある。

第十九条 本会会計に二名の会計監査を置く。

第八章 規約改正

第二十条 本会則は総会に於いて出席会員の三分の二以上の賛同があれば改正することができる。

第二十一条 会員は住所氏名の変更その他移動ある場合は速やかに報告すること。

補足

一、本会則は昭和四十八年八月十八日より実施する。

二、本会員が本会及び東京交通短期大学の名誉を著しく傷つけた場合は、総会の決議によりこれを除名することができる。

三、本会則の一部(第十九条、会費)を平成七年度から改正する。

四、本会則の一部(第七条、役員の3号)を平成二十一年度から改正する。

五、本会則の一部(第三条、第六条、第九条、第十条、第十一条、第十二条、第十三条)を令和三年度より改正する。

編集後記

・実は前号には1つ重大なミスが隠されています。気付いた時は校了どころか印刷所へデータを納めた後で「やっちゃったー!」と頭を抱えました。今号はそんな事ないと…信じたいです。 ※なお発見しても賞品等はありません。(編集・甲)

・リニューアル第2号をお届けしました。まだ紙媒体で発行される事を想定したレイアウトですが、いつかはデジタルリリース前提の紙面に再リニューアルする予定です。もしかすると、紙では読み難くなるなんてことも…?(編集・乙)